

オペラ

ヘンデル 《ヘラクレス》

第4回ヘンデル・フェスティバル・ジャパン。ギリシャ神話に登場する英雄を題材にし、妻デージャナイラの嫉妬によって非業の死を遂げるまでを描いた演奏会形式の音楽劇。上演時間が長いうえにディーネイラのパートが難しいので滅多に演奏さ



《ヘラクレス》

れないが、人によっては「ヘンデルの劇作品の頂点」と目される傑作だ。前回同様、キャンノズ・コンソートと合唱団がすばらしく、序曲から終幕の合唱までスピリットに富んだ充実した演奏を聴かせた（弦楽器は起立しての演奏）。輝かしい美声と重厚な歌唱の牧野正人（ヘラクレス）、第2部〈田舎の小屋に〉で無垢と諦観と憧れの入り混じったアリアを聴かせた野々下由香里（アイオレ）、第3部で英雄の死の顛末を色濃い情念の表出をもつて歌い上げた米良美一（ライカス）。デージャナイラ役の波多野睦美は嫉妬のあまり狂気に取り付かれていく様を多彩な表情で歌い切つて見事の一言。終幕第5場でみずみずしい美声を披露した辻裕久（ヒュロス）も含めて配役の妙味が随所に生きている。それに、最後までニュアンス豊かな造形と自発性を維持した器楽と合唱とが相俟つて、「ドラマティスト・ヘンデル」の劇音楽の醍醐味を堪能した。1月14日・浜離宮朝日ホール

● 那須田 務